

再 評 価 調 書

I 事業概要					
事業名	農業農村整備事業（水環境整備事業）				
地区名	さやちゅうぶ 佐屋中部地区				
事業箇所	いなば 愛西市稲葉町外				
事業のあらまし	<p>本地区は、愛知県西部の愛西市にあり、ほぼ全域が海拔ゼロメートル地帯に属する起伏が少なく平坦な土地であることから、土地の状態が半湿田であり、農用地のほとんどが水田として利用され、水路と水田が一体化していることにより美しい田園の景観を形成しており、生物の生息空間としても優れている。</p> <p>当該排水路は、護岸改修から30年以上が経過しており、護岸の老朽化や法面の雑草繁茂、ゴミの不法投棄などにより維持管理に苦慮しているとともに、周辺農地に悪影響を与え農村環境の悪化も懸念されている。</p> <p>また、当時は治水機能優先により護岸整備されたが、同時に動植物の生息域や親水機能が減少し、地域住民の身近な水辺空間に対する関心も薄らいでいく状況にある。</p> <p>このため、兩岸の管理用道路と水辺散策空間を整備することによって、排水路および周辺農地の保全管理の充実を図ると同時に、地域住民の生活環境を改善し、「日常のやすらぎと潤いを与えるコミュニティの場」としての利活用を図ることを目的として、2015年度から水環境整備事業を実施しており、2022年度に完了する計画である。</p>				
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <p>農業水利施設及び農村環境の保全を図り、豊かで潤いのある生活環境を提供する。</p> <p>【副次目標】</p> <p>—</p>				
計画変更の推移		事前評価時(2014)	再評価時(2021)	変動要因の分析	
	事業期間	2015～2020	2015～2022	地元調整による延長増	
	事業費(億円)	9.8	12.1		
	経費内訳	工事費	8.8	11.5	労務資材費(2015単価→2021単価)および施工延長の増
		用補費	—	—	変更なし
その他	1.0	0.6	労務資材費の増		
事業内容	<親水景観保全施設> 護岸工 L=3.3km 自然石かマツ L=120m <利用保全施設> 管理用道路 L=3.3km 安全防止柵 N=1式 休憩施設 N=1式 低木植栽 N=1式	<親水景観保全施設> 護岸工 L=3.5km 自然石かマツ L=120m <利用保全施設> 管理用道路 L=3.5km 安全防止柵 N=1式 休憩施設 N=1式 低木植栽 N=1式			
II 評価					
①事業の必要性の変化	1) 必要性の変化	<p>【事前評価時の状況】</p> <p>当該排水路は、経年劣化による水路機能低下やゴミの不法投棄、雑草の繁茂などにより排水路の保全管理に支障をきたしているとともに、地域住民の生活に密接な関係を持ってきた水辺空間が人々と疎遠になりつつある。</p> <p>よって、水路護岸および管理用道路を整備することにより、地域住民の農業水利施設に対する意識の高揚にも繋がり、農村環境の維持・保全活動を促進するうえで重要な役割を持つものであるため、早急な整備を図る必要がある。</p> <p>さらに、兩岸の管理用道路を整備することにより、災害時の避難所として指定されている愛西市親水公園総合体育館までの避難経路として二次的な役割も果たすことができ、整備の必要性は高い。</p>			

	<p>【再評価時の状況】</p> <p>本事業による整備が現時点で未着手の区間は、依然として管理者が保全管理に苦慮していることから、景観に配慮した整備を実施し、農業水利施設や農村環境を保全する必要があり、整備の必要性は事前評価時とほぼ同程度と考えられる。</p> <p>【変動要因の分析】</p> <p>周辺環境にほとんど変化はなく、事業の必要性に変化はない。</p>																																																																																																																												
判定	<p>B</p> <p>A： 事業着手時に比べ必要性が増大している。 B： 事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。 C： 事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。</p> <p>※事業着手時と比較することが適当ではないと判断される場合は、「事業着手時」を「前回評価時」に置き換えることができる。</p> <p>【理由】</p> <p>周辺環境にほとんど変化はなく、事業の必要性は事前評価時と同等であるため。</p>																																																																																																																												
<p>1) 進捗状況</p> <p>②事業の進捗状況及び見込み</p>	<p>【事業計画及び実績】</p> <table border="1" data-bbox="411 741 1398 1088"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>2015</th> <th>2016</th> <th>2017</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">工種区分</td> <td>調査・設計</td> <td>←→</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>用地補償</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>親水景観保全施設</td> <td></td> <td>←</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> <td></td> </tr> <tr> <td>利用保全施設</td> <td></td> <td>←</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">事業費(億円)</td> <td>当初計画①</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>9.8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>9.8</td> </tr> <tr> <td>実績②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>8.5</td> <td></td> <td></td> <td>3.2</td> <td></td> <td>11.7</td> </tr> <tr> <td>今回計画③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>8.5</td> <td></td> <td></td> <td>3.6</td> <td></td> <td>12.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>【進捗率】</p> <table border="1" data-bbox="379 1200 1433 1536"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">これまでの計画に対する達成状況</th> <th colspan="2">全体進捗率</th> </tr> <tr> <th>当初計画【①】</th> <th>実績【②】</th> <th>達成率(%)【②÷①】</th> <th>今回計画【③】</th> <th>達成率(%)【②÷③】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延長(km)</td> <td>3.3</td> <td>3.2</td> <td>97%</td> <td>3.5</td> <td>91%</td> </tr> <tr> <td>事業費(億円)</td> <td>9.8</td> <td>8.5</td> <td>87%</td> <td>12.1</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td> 工事費</td> <td>8.8</td> <td>8.0</td> <td>91%</td> <td>11.5</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td> 用地補償費</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0%</td> <td>-</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td> その他</td> <td>1.0</td> <td>0.5</td> <td>50%</td> <td>0.6</td> <td>83%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【施工済みの内容】</p> <p>親水景観保全施設、利用保全施設 L=3.2km</p> <p>【事後評価に準ずるフォローアップ】</p> <p>該当なし。</p> <p>2) 未着手又は長期化の理由</p> <p>事業着手後、地元関係者と調整し、事業内容を見直したことにより事業量増となり、事業期間の延長が必要となった。</p> <p>3) 今後の事業進捗の見込み</p> <p>【阻害要因】</p> <p>なし。</p> <p>【今後の見込み】</p> <p>今後、予算確保に努めながら事業の進捗を図り、予定工期内の完了を目指す。</p>			2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	計	工種区分	調査・設計	←→									用地補償										親水景観保全施設		←						→		利用保全施設		←						→		事業費(億円)	当初計画①				9.8					9.8	実績②				8.5			3.2		11.7	今回計画③				8.5			3.6		12.1		これまでの計画に対する達成状況			全体進捗率		当初計画【①】	実績【②】	達成率(%)【②÷①】	今回計画【③】	達成率(%)【②÷③】	延長(km)	3.3	3.2	97%	3.5	91%	事業費(億円)	9.8	8.5	87%	12.1	70%	工事費	8.8	8.0	91%	11.5	70%	用地補償費	-	-	0%	-	0%	その他	1.0	0.5	50%	0.6	83%
		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	計																																																																																																																			
工種区分	調査・設計	←→																																																																																																																											
	用地補償																																																																																																																												
	親水景観保全施設		←						→																																																																																																																				
	利用保全施設		←						→																																																																																																																				
事業費(億円)	当初計画①				9.8					9.8																																																																																																																			
	実績②				8.5			3.2		11.7																																																																																																																			
	今回計画③				8.5			3.6		12.1																																																																																																																			
	これまでの計画に対する達成状況			全体進捗率																																																																																																																									
	当初計画【①】	実績【②】	達成率(%)【②÷①】	今回計画【③】	達成率(%)【②÷③】																																																																																																																								
延長(km)	3.3	3.2	97%	3.5	91%																																																																																																																								
事業費(億円)	9.8	8.5	87%	12.1	70%																																																																																																																								
工事費	8.8	8.0	91%	11.5	70%																																																																																																																								
用地補償費	-	-	0%	-	0%																																																																																																																								
その他	1.0	0.5	50%	0.6	83%																																																																																																																								

	判定	<p>B</p> <p>A：これまで事業は順調であり、引き続き計画通り確実な完成が見込まれる。</p> <p>B 次のいずれか（該当する項目に「○印」を付ける）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 ○これまで事業が長期化していたが、事業期間を延長したことにより、今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 ・これまでの事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害要因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 <p>C：阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。</p>																																									
		<p>【理由】</p> <p>事業期間を延長したことにより、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。</p>																																									
③事業の効果の変化	1) 貨幣価値化可能な効果（費用対効果分析結果）の変化	<p>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析の算定基礎となった要因変化の有無】</p> <p>事前評価時から大きな変化はない。</p> <p>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析結果】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区 分</th> <th>事前評価時 (基準年:2014)</th> <th>再評価時 (基準年:2021)</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">費用 (億円)</td> <td>当該事業による費用</td> <td>7.8</td> <td>12.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>関連施設の整備費用等 注)</td> <td>3.4</td> <td>5.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計 (C)</td> <td>11.2</td> <td>17.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">効果 (億円)</td> <td>維持管理費節減効果</td> <td>-0.4</td> <td>-0.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>景観・環境保全効果</td> <td>15.8</td> <td>20.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計 (B)</td> <td>15.4</td> <td>19.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(参考) 算定 要因</td> <td>受益世帯数(戸)</td> <td>6578</td> <td>6431</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用対効果分析結果 (B/C)</td> <td>1.37</td> <td>1.07</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※金額は、社会的割引率(4%)を用いて現在の価値に換算したものの。 ※四捨五入により端数が合わない場合がある。 注) 関連施設の整備費用等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連施設：該当なし ・評価期間：48年（当該事業の工事期間8年+40年） ・算定式：再整備費+事業着工時点の資産価格-評価期間終了時点の資産価格 <p>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析手法】 「新たな土地改良の効果算定マニュアル」（2015年9月 農林水産省農村振興局企画部土地改良企画課・事業計画課監修）に基づき算定。</p> <p>【変動要因の分析】 施工延長の増および施設計画の変更により事業費が増となったため、費用便益比(B/C)は1.07となった。</p>	区 分		事前評価時 (基準年:2014)	再評価時 (基準年:2021)	備 考	費用 (億円)	当該事業による費用	7.8	12.0		関連施設の整備費用等 注)	3.4	5.7		合計 (C)	11.2	17.7		効果 (億円)	維持管理費節減効果	-0.4	-0.5		景観・環境保全効果	15.8	20.0		合計 (B)	15.4	19.5		(参考) 算定 要因	受益世帯数(戸)	6578	6431		費用対効果分析結果 (B/C)		1.37	1.07	
		区 分		事前評価時 (基準年:2014)	再評価時 (基準年:2021)	備 考																																					
		費用 (億円)	当該事業による費用	7.8	12.0																																						
			関連施設の整備費用等 注)	3.4	5.7																																						
			合計 (C)	11.2	17.7																																						
		効果 (億円)	維持管理費節減効果	-0.4	-0.5																																						
			景観・環境保全効果	15.8	20.0																																						
			合計 (B)	15.4	19.5																																						
			(参考) 算定 要因	受益世帯数(戸)	6578	6431																																					
		費用対効果分析結果 (B/C)		1.37	1.07																																						

	2) 貨幣価値化困難な効果の変化	<p>【事前評価時の状況】 該当なし。</p> <p>【再評価時の状況】 該当なし。</p> <p>【変動要因の分析】 該当なし。</p>
	判定	<p>A</p> <p>A: 事業着手時とほぼ同様の事業効果が発現される見通しがある。 B: 事業着手時と比べ低下が見られるが、十分な事業効果が確保される見通しがある。 C: 事業着手時と比べ著しく低下し、現時点では事業効果が確保される見通しが立たない。</p> <p>【理由】 事前評価時から大きな変化はない。</p>
III 対応方針（案）		
	継続	<p>中止：上記①～③の評価で一つでもC判定があるもの。 継続：上記以外のもの。</p>
IV 事後評価実施の有無と主な評価内容		
<p>■対象（事業完了後 年目） <input type="checkbox"/>対象外</p> <p>【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】</p> <p>—</p> <p>【主な評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の維持管理状況 ・施設の利用状況 		
V 事業評価監視委員会の意見		
佐屋中部地区の対応方針（案）[事業継続] を了承する。		
VI 対応方針		
事業継続		